

金型要らずの高度な板金加工技術で注目されるのが井口一世(東京・千代田)だ。創業者の井口一世社長(61)は女性を積極的に採用し、失敗を恐れない企業文化と働きに報いる賃金制度で、職人として育成する。埼玉県所沢市の住宅街に構える工場では、若い女性従業員が巨大なレーザー加工機を巧みに操作する。

高度な技術を実現する秘訣は「失敗」にある。

「うまくいかなかったデータを蓄えることは、どのような方法が最適かを学ぶことにつながる。失敗がないと新しいものは生まれない」。井口社長は力を込める。

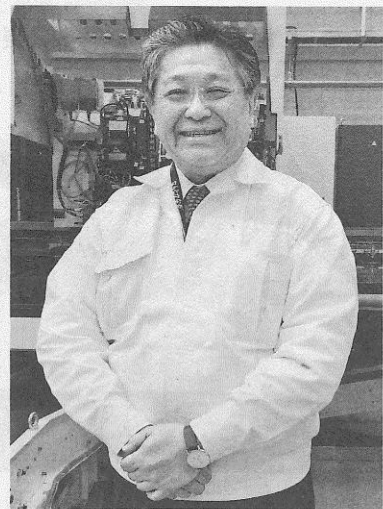
同社はこれまで熟練の職人が感覚や勘に頼っていた技術・工程を数値に置き換え、データに基づいたものづくりを目指す。レーザー加工機などの精密加工機械にどのような値を入れれば思い通りに加工ができるか。最適な数値を導き出すには、失敗を重ねてデータを得なければならぬ。

1台数億円もする高価な精密加工機械を壊してしまつこともあるが、そのときは壊した本人に自分で直すよう指導する。従業員約7割が女性で文系出身者が過半を占めるため、機械に触れる場

# 金型使わず板金加工

井口一世社長

井口一世氏

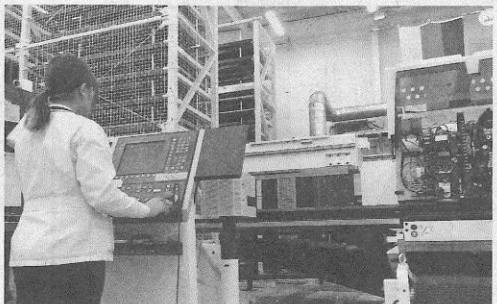


## 高収益実現、憧れの仕事に

面を多くつくり責任感を持たせることで技術力を磨いてもらう狙いだ。

女性従業員を多く採用するのは「真面目で安定した仕事をしてくれるから」だ。従業員の働く意欲を高め、経験を積んだ職人の努力に報いようと、毎月昇給の機会がある独自の賃金制度を設ける。井口社長が働きぶりなどを評価した従業員は5千円あるいは1万円の幅で昇給できる。給料が年4回上がる従業員もいるという。「しっかりと従業員が稼げる中小企業を実現する」のが目標だ。

精密加工で板金業界に



巨大な加工機を操作する井口一世の若手女性社員(埼玉県所沢市)

いぐち・いっせい 父が経営していたプレス加工の町工場を継いだ後、2001年に井口一世を設立。13年にジャパンベンチャーアワード2013経済産業大臣賞を受賞するなど受賞歴多数。

## トップの挑戦

ヒントとなったのは顧客から寄せられていた「金型は高い」「金型での生産は時間がかかる」という不満の声だった。その解を示せば皆が幸せになる。起業のための資金は工場や自宅などを売って何とか捻出。43歳の時に自分の会社を立ち上げた。

現在は従業員数が約40人に増え、16年3月期の売上高は78億円、純利益2億円程度に成長した。

17年3月期も成長を見込み、売上高は83億〜85億円程度を想定する。中小製造業としては超高収益の企業に育つ。5〜6年後には新規株式公開(IPO)も視野に入

ケティングの意味でも上げた。掲げたのは「金型を使わないものづくり」だ。データを駆使して精密に板金加工することで、熟練の職人に引けを取らない高精度の製品を低コストで造れるようにした。開(IPO)も視野に入っていた。しか

し取引先は次は高くなる。例えば、複合加工機を製造するため2000ほどの程度の金型に発注を出すようになり、30億円にも上るとい

う。しかし新しい技術はないと生き残れなくなか受け入れられなかつた。創業当初、社員は井口社長を含めてわずか2人。売り上げは300万円程度だった。

(黒田弁慶)

苦しい経営状態だった。武蔵野銀行の担当者から井口一世の事業と将来性を評価し、04年ごろに1500万円の融資を決めてくれた。06年には埼玉県が県内中小企業の技術・製品開発を後押ししようとした第1回渋沢栄一ベンチャードリム大賞(現渋沢栄一ビジネス大賞)の奨励賞を受賞。その後は徐々に商談の依頼が増え出した。